

※ $H_2$ はマイケとして計算する。

図 3-3-13 基礎断熱各部の寸法

なお、基礎廻りについては様々な形状があり、計算方法の判断が行いにくいケースが多数存在する。以下にその考え方の例示を示す。

- ① 1階床が土間となっている場合（土間天端  $GL + 400\text{mm}$  以下）

$GL + 400\text{mm}$  を超える部分を外壁からの熱損失とし、 $GL + 400\text{mm}$  以下の部分は基礎式を用い熱貫流率  $U_{EJ}$  を計算し、当該基礎の外周長さから熱損失を求めることとなる。

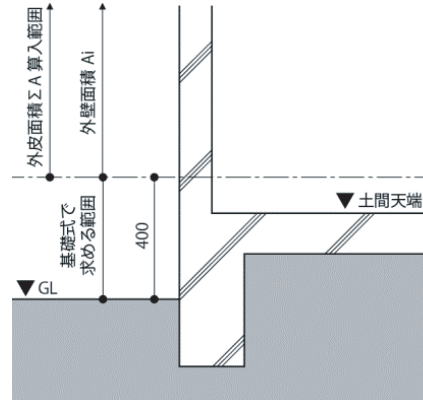


図 3-3-14 土間天端が  $GL + 400\text{ mm}$  以下の基礎

また、当該土間全面に断熱材を施工する場合、外皮面積は土間天端から上側を対象として計算を行うことができる。この場合においても、基礎の熱損失の計算は図 3-3-14 と同様に行うこととなる。